

# 地域戦略研究所紀要

## 第 10 号

縮減都市北九州市民の都市農業活動に関するアンケート調査

李 錦東 …… 59

北九州市立大学  
地域戦略研究所  
2025. 3

# 縮減都市北九州市民の都市農業活動に関するアンケート調査

李 錦東(LEE,Geumdong)

- I 研究の背景と目的
- II 北九州市民の都市農業活動調査の概要
- III 市民の「広い意味での都市農業」への関り 3 区分
- IV 都市農業の経験者の活動中止理由及び再開可能性
- V 市民の都市農業活動内容及び近くの菜園用土地へのニーズ
- VI 市民の都市農業活動に際してのニーズ
- VII まとめ

## ＜要旨＞

北九州市では、1980 年代以降、一貫して人口減少と高齢化が進み、縮減に因む沢山の課題を抱えている。海外の縮減都市では、空き家や空閑地などを農的に利用し、居住環境の改善、コミュニティ再生、高齢者の居場所作りなど、地域の課題を解決した事例もある。北九州市でも地域課題の解決に都市農業の有効活用を考察すべきであるが、関連研究は少ない。本研究では、北九州市民を対象にアンケート調査を実施し、市民の都市農業活動に関する現状やニーズを明らかにし、都市農業活動を振興させるための考察を行う。

## ABSTRACT

Kitakyushu city has been experiencing a steady decline in population and aging since the 1980s. The city is facing many issues due to the shrinkage. In shrinking cities, it is expected that vacant houses and vacant land can be used for agricultural purposes to improve the living environment, revitalize the community, and create a place for the elderly. Kitakyushu city should also consider the effective use of urban agriculture to solve local issues, but there is little related research. In this study, a questionnaire survey was conducted on Kitakyushu citizens to clarify the current situation and needs regarding urban agricultural activities of citizens. And this study examines factors that promote urban agricultural activities among citizens.

## ＜キーワード＞

縮減都市、空き家、地域課題解決、都市農業活動、振興要因、Shrinking city, Vacant house, Solving local issues, Urban agricultural activities, Promotion factors

## I 研究の背景と目的

北九州市では、1980 年代から一貫して人口減少と高齢化が進んできた。市では縮減に因む多様な課題を抱えているが、とくに人口減少が目立つ地区では、空き家・空き地などが増加し、その管理や利活用が十分に行われず居住環境が悪化している。また、そのような地区では、高齢化率が 40%を超える地区も多く、コミュニティの衰退、ライフラインの崩壊さえも恐れられている。

これらの地域課題の解決に、総合的にコミットメントできそうな取り組みは、広い意味での都市農業の利活用である。海外において都市の縮減を経験した国では、空き地・空き家、遊休地などをコミュニティガーデン、菜園などとして農的に利用することで地域の居住環境の改善、コミュニティを再構築した事例も少なくない。アメリカのデトロイトやドイツのライプツィヒなどの事例は良く知られている。

そして、国内で行われた大人の趣味に関するアンケート調査など<sup>1</sup>では、20 代から 60 代まで各歳代別主要趣味の一つは園芸や観葉植物を育てる活動である。とくに 60 歳以上では、30～40%を超える最大の趣味であった。そして、高齢者には、園芸活動や観葉植物を育てる、野菜作りなどの土いじりは、心理的なケア、居場所の提供など重要な意味をもつ。これらの活動は、生業ではない・趣味的・広い意味の都市農業として分類できる。

近年、海外諸国における「都市農業/Urban Agriculture」の定義は多様であり、生業ではない・趣味的「都市農」も含むケースが増加している<sup>2</sup>。広い意味での都市農業には、都市部での生業としての農業をはじめに、都市住民が都市部において生業ではない・農的な生活を楽しむことが含まれる。

一方、国内の農林水産省などの関係部局や自治体では、生業としての都市農業に重きを置いているが、趣味的「都市農」に関わる人を増やすための努力もちらちら見える。農林水産省や自治体などの既存の農業/生業的な農業の拡大は、順調ではなく、長年の努力もあまり実を結んでいない。農業分野の高齢化や後継者不足問題に対して、農林水産省は農業の「多様な担い手」育成の目標を掲げている。

関連の取り組みでは、都市化の進展により年々農地が減少する中で、市民農園などを都市住民が手軽に自然や農業に触れることができる空間として、市民農園などの利用は農地の市民的利用として位置付けられている。また、都市民のそれらの活動を、関係者や研究者では市民が市民農園などを利用し、農に触れ、農業の大切さを理解することはもちろん、都市農を実行することが「多様な担い手」育成への一つの手掛かりや入口、多様な担い手として成長させるグラデーションの一部として位置付けている。

本稿では、広い意味での都市農業には、既存の都市部で行われる生業として都市農業 (Professional Urban Agriculture) に、趣味的都市農 (Urban Gardening) の概念を付け加える。即ち、広い意味での都市農業は、都市部で行われる生業として農業、生活の足しになる副業的な農業、ある程度まとまった農地を利用していくつかの作物の自給を図る農、趣味として野菜を少し栽培する行為、市民農園・貸農園などで野菜や花を作ること、庭やベランダなど

を利用した菜園活動、プランターや花壇などを利用した園芸活動、単に室内外で観葉植物を育てることまで、多様なスペクトラムをもつ。

海外の縮減都市では、広い意味の都市農業活動をする人を増やせ、空き地や遊休地などを有効に活用しながら、縮減に因む地域の課題などを解決してきた。しかし、国内では、地域の空き地・遊休地などを農的に活用する方針を立てているものの、実際に都市農業活動を拡大する取り組みはすくなく、都市農業活動を増やす制度の導入などに関する考察も少ない(李(2024b)参照)。

とまれ、縮減都市北九州市では、広い意味での都市農業を活用し、空き家・空き地問題、高齢者の居場所不足問題、コミュニティ弱化問題などの地域課題の解決を図る考察をしなければならない。しかし、関連研究はすくなく、市の都市農業関連政策・市民農園や体験農園などの現状を分析した李(2024a)の研究を除けば、殆ど見当たらない。ましてや北九州市民の都市農業活動に関する研究や公開されたアンケート調査は皆無に等しい。

李(2024a)によると、北九州市内では2023年12月現在、市民農園などの既存の貸農園、体験農園、企業の貸農園の総区画数は1,219区画であった。20歳以上の市民500人に1区画(0.17%)の割合であるが、その区画さえも埋まらず空きがある。この現状から、北九州市民は都市農業について関心が薄いと判断されるかも知れない。しかし、2021年に駐車場を貸農園にしたD社の利用率100%、市民農園などでの長期利用者の利用率、フィールドワークでの関係者の言葉などを参考にすると、決してそうではない。

そこで、本研究では、北九州市民を対象に都市農業活動に関するアンケート調査を実施した。調査により、①北九州市民が、園芸・観葉植物を育てる・野菜を作るなどの趣味的都市農、広い意味での都市農業に、どれほど関わっているのか、②現在都市農業に関わっている人、経験が全くない人はどの程度いるのか、③都市農業の経験はあるが続けられなかった人などが、再び生活に都市農業を取り入れ、都市農業プレイヤー(実践者、実行者)になるためには、何が必要か、④市民が、都市農業活動に際して求めるものは何かなどを明らかにする。

## Ⅱ 北九州市民の都市農業活動調査の概要

### 1 調査概要

本研究では、2025年1月中旬、北九州市に在住する20歳以上の成人を対象に、インターネット調査を実施し、579人から回答を得られた。

回答者の人口属性は、以下の表にまとめた。インターネット調査に際して、依頼先に①性別、②年齢別、③居住区別の割合は、概ね2020年国勢調査における割合に合わせ、標本を抽出するようにした。但し、20代男性の標本数が足りず、30代の男性で補填して、性比を調整している。また、上の3つの人口属性の他には条件を設定していないため、他の人口属性に偏りが生じている可能性があることも断っておく。

図表 1) 回答者の性別・年齢別分布 (579 人)

|       | 20 代 | 30 代 | 40 代 | 50 代 | 60 代 | 70 代以上 | 総数            |
|-------|------|------|------|------|------|--------|---------------|
| 男性    | 10   | 53   | 43   | 39   | 42   | 72     | 259 人 (44.7%) |
| 女性    | 35   | 35   | 45   | 43   | 56   | 106    | 320 人 (55.3%) |
| 男性+女性 | 45   | 88   | 88   | 82   | 98   | 178    | 579 人         |
| 年齢別%  | 7.8  | 15.2 | 15.2 | 14.2 | 16.9 | 30.7   | 100%          |

図表 2) 回答者の居住区別分布 (579 人)

|          | 八幡西区  | 小倉北区  | 小倉南区  | 若松区   | 門司区  | 戸畑区  | 八幡東区 | 合計   |
|----------|-------|-------|-------|-------|------|------|------|------|
| 回答者数 (人) | 146   | 131   | 117   | 59    | 48   | 41   | 37   | 579  |
| 割合       | 25.2% | 22.6% | 20.2% | 10.2% | 8.3% | 7.1% | 6.4% | 100% |
| 区別人口割合※  | 26.7% | 22.4% | 19.8% | 8.5%  | 9.7% | 6.0% | 6.8% | 100% |

※2025 年 1 月現在、北九州市推計人口による

図表 3) 歳代別年間所得水準 (317 人)

|         |       |        | □200万円未満 |      | □200万円以上～400万円未満 |      | □400万円以上～600万円未満 |      | □600万円以上～800万円未満 |  | □800万円以上～1000万円未満 |  | □1000万円以上 |  | □答えたくない |  |
|---------|-------|--------|----------|------|------------------|------|------------------|------|------------------|--|-------------------|--|-----------|--|---------|--|
| Total   | 317 人 | 100.0% | 24.3     | 24.3 | 18.9             | 11.4 | 2.8              | 16.4 |                  |  |                   |  |           |  |         |  |
| 20-29 歳 | 33    | 10.4%  | 24.2     | 39.4 | 18.2             | 1.4  | 18.2             |      |                  |  |                   |  |           |  |         |  |
| 30-39 歳 | 73    | 23.0%  | 16.4     | 19.2 | 34.2             | 16.4 | 2.7              | 9.6  |                  |  |                   |  |           |  |         |  |
| 40-49 歳 | 71    | 22.4%  | 21.1     | 19.7 | 16.9             | 21.1 | 2.8              | 15.5 |                  |  |                   |  |           |  |         |  |
| 50-59 歳 | 57    | 18.0%  | 28.1     | 14.0 | 14.0             | 10.5 | 3.5              | 7.0  | 22.8             |  |                   |  |           |  |         |  |
| 60-69 歳 | 54    | 17.0%  | 29.6     | 29.6 | 11.1             | 3.7  | 1.9              | 22.2 |                  |  |                   |  |           |  |         |  |
| 70 歳以上  | 29    | 9.1%   | 34.5     | 41.4 | 10.3             | 3.4  | 10.3             |      |                  |  |                   |  |           |  |         |  |

年間所得には、全回答者の 54.7% (317 人) が回答している。回答者の所得層は、「200 万円未満」と「200 万円-400 万円未満」がそれぞれ 24.3%、「400 万円-600 万円未満」が 18.9%、「600 万円-800 万円未満」が 11.4%となっている。「1000 万円以上」が 2.8%、「800 万円-1000 万円未満」が最も少なく 1.9%となっている。

年間所得を歳代別にみると、30 代では「400 万円-600 万円未満」が 34.2%と最も高く、次いで「200 万円-400 万円未満」が 19.2%である。40 代では「600 万円-800 万円未満」と「200 万円未満」がそれぞれ 21.1%、「200 万円-400 万円未満」が 19.7%である。50 代では「200 万円未満」が 28.1%、「200 万円-400 万円未満」と「400 万円-600 万円未満」が 14.0%となっている。

回答者の年齢が上がるにつれて、「200 万円未満」の割合が増加する傾向がみられる (30 代 16.4%、50 代 29.6%、70 歳以上 34.5%)。「600 万円-800 万円未満」の所得層は 40 代で最も高く 21.1%、次いで 30 代で 16.4%となっている。そして、「1000 万円以上」の所得層は、50 代で 7.0%と最も高い。

図表 4) 歳代別結婚率 (579 人)

|            | Total | 20-29 歳 | 30-39 歳 | 40-49 歳 | 50-59 歳 | 60-69 歳 | 70 歳以上 |
|------------|-------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|
| Total (人)  | 579   | 45      | 88      | 88      | 82      | 98      | 178    |
| 結婚している (人) | 362   | 8       | 47      | 47      | 44      | 65      | 151    |
| 結婚率        | 62.5% | 17.8%   | 53.4%   | 53.4%   | 53.7%   | 66.3%   | 84.8%  |

回答者の結婚率は62.5%であり、歳代別にみると、70歳以上で84.8%と最も高く、60代で66.3%、50代・40代・30代はそれぞれ53%程度である。本調査における40代・50代の非婚率は、46%を超えており、比較的に高い。

図表 5) 歳代別同居子供人数 (579 人)

|         |     | 0人   | 1人   | 2人   | 3人   | 4人以上 |
|---------|-----|------|------|------|------|------|
| Total   | 579 | 72.2 | 14.2 | 8.8  | 3.6  | 1.2  |
| 20-29 歳 | 45  | 91.1 | 2.2  | 4.4  | 2.2  | 0.0  |
| 30-39 歳 | 88  | 59.1 | 10.2 | 13.6 | 14.8 | 2.3  |
| 40-49 歳 | 88  | 50.0 | 13.6 | 27.3 | 8.0  | 1.1  |
| 50-59 歳 | 82  | 65.9 | 22.0 | 9.8  | 1.2  | 0.2  |
| 60-69 歳 | 98  | 79.6 | 17.3 | 2.0  | 0.7  | 0.4  |
| 70 歳以上  | 178 | 83.7 | 14.0 | 1.7  | 0.0  | 0.0  |

回答者の同居子供人数は、0人が最も多く72.2%を占めており、1人(14.2%)、2人(8.8%)と続く。3人以上の同居子供がいる世帯は、28人(4.8%)であり、比較的少数である。

歳代別にみると、全歳代で同居中の子供がいない割合が50%を超えている。同居中の子供がいる世帯は、40代の50%が最も高く、次いで30代40.1%、50代の24.1%が続く。

同居中の子供がいる主要歳代をみると、30代では3人以上の子供と同居している割合が比較的高く17.1%、次いで子供2人の13.6%、子供1人の10.2%である。40代では、2人の子供と同居している割合が27.3%と最も高く、次いで1人の13.6%、3人以上が9.1%である。50代では、1人の子供と同居している割合が22%、2人が9.8%、3人以上が2.4%となっている。30代及び40代で、子育て世代の特徴がみられる。

そして、60歳以上の年齢層では、子供と同居している割合は、20%前後であり、2人以上の子供と同居している世帯は殆どいない。

## 2 北九州市民の趣味活動

本調査では、まず、北九州市の20歳以上の市民がどのような活動を、趣味として思い、活動としているのかを尋ねた。

本調査では、回答者に「趣味活動は、全くしていない」や「その他(自由回答)」を含む14の項目に、チェックを入れるようにした(複数回答可)。そして、ここ1年、趣味活動を1度もしていない人は、「趣味活動は、全くしていない」と回答するようにした。

その結果、579人から986個の回答を得られた。まず、「趣味活動は、全くしていない」は146人(25.2%)、趣味活動をしている人は433人(74.8%)であった。

趣味活動をしている433人の回答総数は837個であり、一人当たり1.93個の回答である。即ち、趣味活動をしている人は、およそ2種類の趣味活動をしていると言える。

北九州市民に人気がある趣味活動は、第1に「ランニング／ウォーキング など」141人(24.4%)で、次いで「読書」123人(21.2%)、「映画鑑賞」115人(19.9%)、「料理」78人(13.5%)、「その他(自由記述)」91人(13.3%)となっている。

その他の 91 人の記述内容は、音楽関連 18 人（ライブ 6、楽器演奏 6、鑑賞 3 人など）、モノ作り関連 12 人（手芸 6 人など）、ゲームや旅行（ドライブ、温泉など含む）や推し活がそれぞれ 8 人、自分で体を動かすスポーツ関連が 7 人、釣り 6 人、PC で動画などを楽しむ 5 人、他の回答が 19 人となっている。

そして、「園芸や観葉植物を育てること、野菜作りなど(広い意味での都市農業)」を趣味としてあげているのは 63 人（10.9%）であった。

図表 6) 全歳代の趣味活動

| Total                            | 579 人 | (%) ※ |
|----------------------------------|-------|-------|
| 趣味活動は、全くしていない                    | 146   | 25.2  |
| ランニング／ウォーキング など                  | 141   | 24.4  |
| 読書                               | 123   | 21.2  |
| 映画鑑賞                             | 115   | 19.9  |
| その他（自由記述）                        | 91    | 15.7  |
| 料理                               | 78    | 13.5  |
| 園芸や観葉植物を育てること、野菜作り等（広い意味として都市農業） | 63    | 10.9  |
| 美術館や博物館めぐりなど鑑賞                   | 53    | 9.2   |
| パチンコ／スロット／競馬など                   | 48    | 8.3   |
| ゴルフやテニスなどのスポーツ                   | 43    | 7.4   |
| ヨガやエステなど                         | 27    | 4.7   |
| バーベキューや登山等のアウトドアスポーツ             | 26    | 4.5   |
| 囲碁／将棋／チェスなどのテーブルゲーム              | 17    | 2.9   |
| 陶芸や彫刻などのものづくり                    | 12    | 2.1   |

注 1) 回答総数は 986 個。趣味活動は全くしていない人を除く趣味活動総数は、837 個。

注 2) 趣味活動している人は 433 人（74.8%）、平均 1.9 個の趣味活動をしている。

注 3) 本調査では「趣味活動」の意味を断らず、回答者のイメージによる回答である。

図表 7) 歳代別の趣味活動

|                  | Total | 20-29 歳 | 30-39 歳 | 40-49 歳 | 50-59 歳 | 60-69 歳 | 70 歳 以上 |
|------------------|-------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| Total (人)        | 579   | 45      | 88      | 88      | 82      | 98      | 178     |
| 趣味活動は、全くしていない    | 25.2% | 28.9%   | 31.8%   | 20.5%   | 30.5%   | 24.5%   | 21.3%   |
| 園芸や観葉植物を育てること…   | 10.9% | 4.4%    | 5.7%    | 5.7%    | 4.9%    | 10.2%   | 20.8%   |
| 美術館や博物館めぐりなど鑑賞   | 9.2%  | 0.0%    | 9.1%    | 5.7%    | 7.3%    | 12.2%   | 12.4%   |
| パチンコ／スロット／競馬など   | 8.3%  | 8.9%    | 8.0%    | 13.6%   | 8.5%    | 10.2%   | 4.5%    |
| ゴルフやテニスなどのスポーツ   | 7.4%  | 6.7%    | 4.5%    | 8.0%    | 7.3%    | 6.1%    | 9.6%    |
| 陶芸や彫刻などのものづくり    | 2.1%  | 2.2%    | 5.7%    | 0.0%    | 2.4%    | 0.0%    | 2.2%    |
| 料理               | 13.5% | 15.6%   | 14.8%   | 11.4%   | 14.6%   | 14.3%   | 12.4%   |
| 映画鑑賞             | 19.9% | 22.2%   | 17.0%   | 21.6%   | 28.0%   | 22.4%   | 14.6%   |
| 読書               | 21.2% | 20.0%   | 20.5%   | 19.3%   | 17.1%   | 23.5%   | 23.6%   |
| バーベキューや登山等アウトドア… | 4.5%  | 4.4%    | 8.0%    | 4.5%    | 3.7%    | 4.1%    | 3.4%    |
| 囲碁／将棋／チェスなどの…    | 2.9%  | 2.2%    | 4.5%    | 3.4%    | 1.2%    | 0.0%    | 4.5%    |
| ランニング／ウォーキング など  | 24.4% | 8.9%    | 15.9%   | 22.7%   | 18.3%   | 30.6%   | 32.6%   |
| ヨガやエステなど         | 4.7%  | 8.9%    | 3.4%    | 6.8%    | 3.7%    | 3.1%    | 4.5%    |
| その他              | 15.7% | 13.3%   | 15.9%   | 18.2%   | 14.6%   | 15.3%   | 15.7%   |

広い意味での都市農業活動を趣味としている回答者を歳代別にみると、20 代で 4.4%、30 代と 40 代でそれぞれ 5.7%、50 代 4.9%、60 代で 10.2%、70 歳以上で 20.8%となっている。その割合は、年齢が上がるにつれて増加する傾向にあり、70 歳以上で急激に増加している。

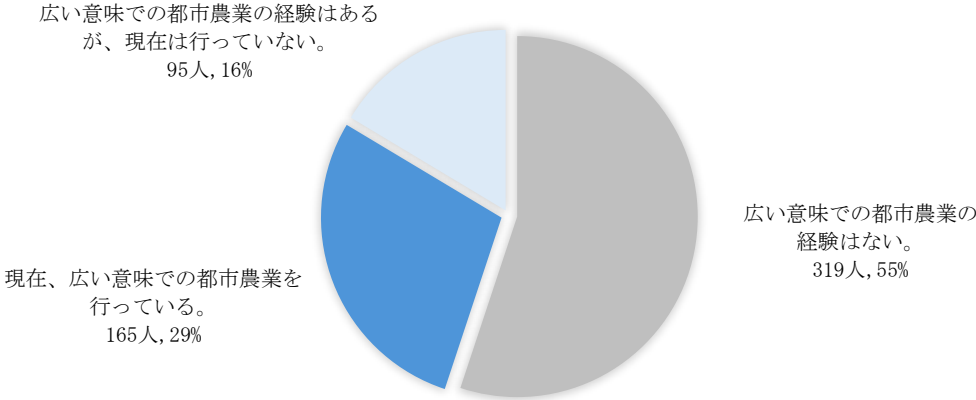
### Ⅲ 市民の「広い意味での都市農業」への関り 3 区分

北九州市民が、広い意味での都市農業にどの程度関わっているかを把握するために、①「(広い意味での都市農業に関わった) 経験はない」、②「現在、都市農業を行っている」、③「都市農業の経験はあるが、現在は行っていない」3 択の質問を設定した。

回答をみると、都市農業の経験がない人が最も多く 319 人 (55.1%) となっている。次いで現在都市農業を行っている人が 165 人 (28.5%)、最も少ない「過去に経験があるが現在は行っていない」は 95 人 (16.4%) であった。

ここで注目すべき点は、都市農業を趣味活動として思って実行している人は 10.9% であったが、実際に生活のなかで広い意味での都市農業を実行している人は 28.5% (約 3 割) であり、趣味として思って実行している人の 3 倍に及ぶことである。

図表 8) 北九州市民の広い意味での都市農業への関り 3 区分 (579 人)



図表 9) 性別都市農業への関り 3 区分 (579 人)

|       |             | ■現在、都市農業を行っている | ■経験はあるが、現在は行っていない | ■経験はない |
|-------|-------------|----------------|-------------------|--------|
| Total | 579 人       | 28.5%          | 16.4%             | 55.1%  |
| 男性    | 259 (44.7%) | 26.3%          | 13.5%             | 60.2%  |
| 女性    | 320 (55.3%) | 30.3%          | 18.8%             | 50.9%  |

都市農業への関わりの 3 区分を性別にみると、女性の方が男性よりも広い意味での都市農業に関与している割合が高い。

女性は、現在都市農業を行っている人と過去に経験がある人を合わせると 49.1% に達するが、男性は 39.8% に過ぎない。現在、都市農業を行っている人の割合も、女性が 28.5% となっており、男性 26.3% より若干高い。まとめると、男性の 6 割は都市農業の経験がないのに対し、女性は約半数が何らかの形で都市農業に関与した経験がある。



図表 10) 歳代別都市農業への関りの 3 区分 (579 人)

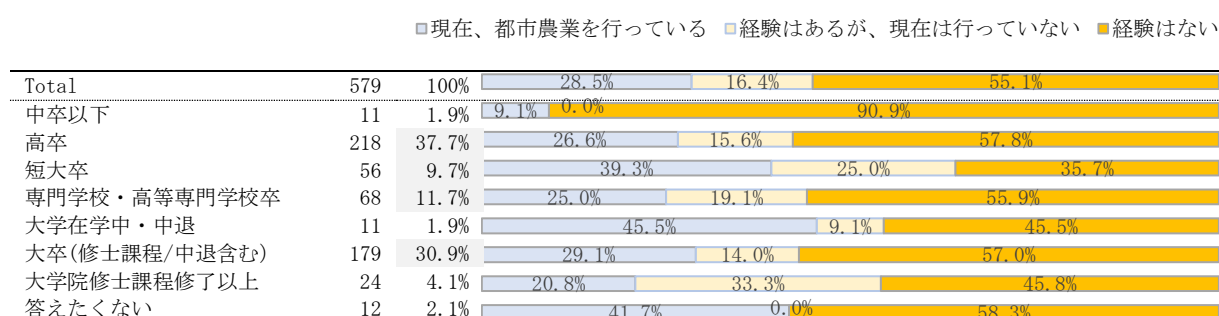
|         | Total | 現在、都市農業を行<br>っている | 経験はあるが、現<br>在行っていない | 都市農業の経験はな<br>い |
|---------|-------|-------------------|---------------------|----------------|
| Total   | 579   | 28.5%             | 16.4%               | 55.1%          |
| 20-29 歳 | 45    | 11.1%             | 13.3%               | 75.6%          |
| 30-39 歳 | 88    | 25.0%             | 19.3%               | 55.7%          |
| 40-49 歳 | 88    | 14.8%             | 13.6%               | 71.6%          |
| 50-59 歳 | 82    | 19.5%             | 20.7%               | 59.8%          |
| 60-69 歳 | 98    | 32.7%             | 12.2%               | 55.1%          |
| 70 歳以上  | 178   | 43.3%             | 17.4%               | 39.3%          |

「現在、都市農業を行っている」回答者を歳代別にみると、最小値が 20 代の 11.1%、平均は 28.5%となっている。30 代では 25.0%、60 代 32.7%、70 代 43.3%となっている。概ね年齢が上がるにつれて、現在都市農業を行っている人の割合が増加する傾向がみられる。

「経験はあるが、現在は行っていない」では、50 代が最も高く 20.7%、次いで 30 代が 19.3%である。全歳代において 12%以上の人が、現在は何らかの理由で実行していない。

「経験がない」では、70 歳以上の 39.3%を除けば、他の歳代ではすべて 55%を超えている。とくに 20 代と 40 代では 70%を超えている。

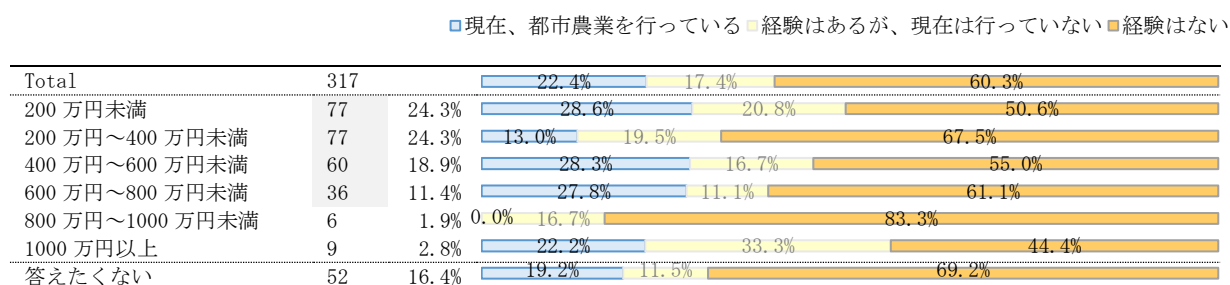
図表 11) 学歴別都市農業への関り 3 区分 (579 人)



回答者の最終学歴は、高卒が 37.7%で最も多く、次いで大卒が 30.7%となっている。専門学校・高等専門学校卒と短大卒がそれぞれ 11.7%と 9.7%が続いている。大学院修士課程修了以上が 4.1%、答えたくない 2.1%となっている。

都市農業への関り 3 区分を学歴別にみると、短大卒では「現在、都市農業を行っている」の割合が 39.3%と比較的高く、経験がない割合が 35.7%と比較的低い。高卒及び大卒は、全体の傾向とほぼ同様の分布を示している。短大卒の回答者は、他の学歴グループと比較して都市農業への関与が高い傾向にある。大学院修士課程修了以上の回答者は、経験はあるが現在は行っていない割合が 33.3%と比較的高くなっている。学歴が高くなるにつれて、都市農業への関与が必ずしも増加するわけではない。

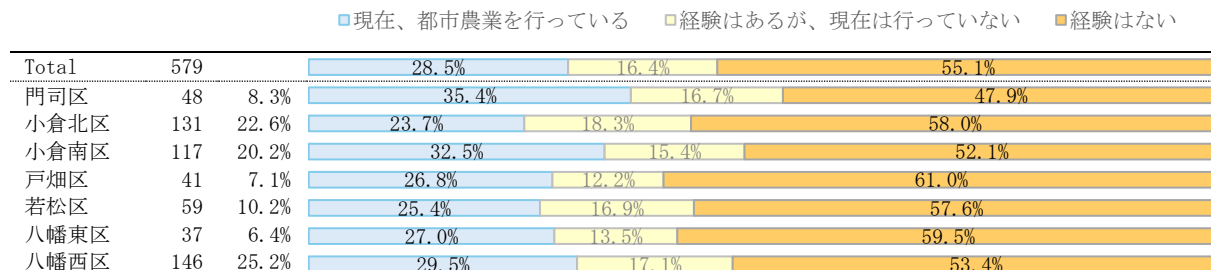
図表 12) 年間所得と都市農業への関り 3 区分 (317 人)



年間所得を答えてくれた回答者は、全回答者と比較すると、経験がない人の割合が高く、現在都市農業を行っている人の割合が 22.4%となっており、全回答者の 28.5%より 6%程度少ないのが特徴として表れている。

年間所得別に 3 区分をみると、サンプルサイズが 30 人以上であった 4 つの所得区間では、所得が低い層の「200 万円未満」、中間層の「400 万円-600 万円未満」、比較的に所得の高い層「600 万円-800 万円未満」の 3 区間で「現在、都市農業を行っている」人の割合が 28%前後になっている。一方、「200 万-400 万円未満」の区間は、実行している人の割合が、13%と低い。

図表 13) 居住区別都市農業への関り 3 区分 (579 人)



居住区別関りの 3 区分をみると、「現在、都市農業を行っている」割合が最も高いのは、門司区 35.4%であった。次いで小倉南区の 32.5%、八幡西区 29.5%、八幡東区が 27.0%、戸畑区 26.8%、若松区 25.4%であい、小倉北区が最も低く 23.7%になっている。小倉北区と小倉南区では、現在都市農業を行っている人の割合に約 9 ポイントの差があり、地域別都市農業への関わり方に違いがみられる。

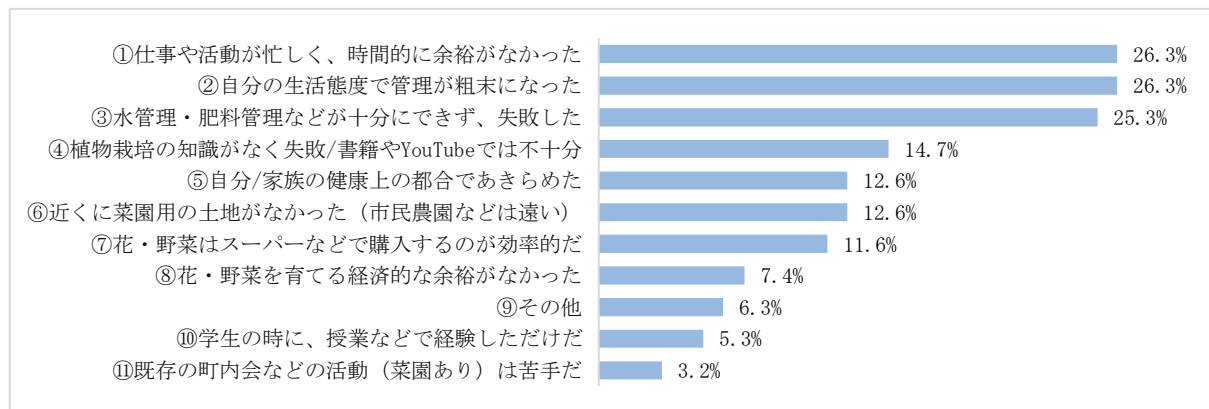
都市農業の経験がない人の割合は、戸畑区が 61.0%と最も高く、次いで八幡東区 59.5%、小倉北区 58%、…、小倉南区 52.1%、門司区が最も低く 47.9%となっている。

#### IV 都市農業の経験者の活動中止理由及び再開可能性

以前、広い意味での都市農業の「経験はあるが、現在は行っていない」と答えた人に、続けられなかった/辞めた原因や理由について、その他（自由記述）を含む 10 の選択肢から、

該当する内容を複数選択するようにし、95 人から 144 個の回答が得られた。即ち、経験者が続けられなかった理由や原因を平均 1.5 個あげている。

図表 14) 都市農業を続けられなかった/辞めた原因・理由 (95 人)



回答を頻度別にみると、①「仕事や活動が忙しく、時間的に余裕がなかったので、続けたい・やりたいと思わなかった」25 人(26.3%)、②「以前、少しやっていたが、管理が粗末になるなど、生活態度などの要因から長続きしなかった」25 人(26.3%)、③「自ら一度／もしくは数回、チャレンジしたが、水管理・肥料管理などが十分にできず、失敗した」24 人(25.3%)となっている。

④「植物を育てることに興味はあるが、植物の栽培に関する知識がなく、失敗した。書物やユーチューブなどの情報だけでは、難しかった」14 人(14.7%)、⑤「自分（もしくは世帯構成員など）の健康上の都合で、あきらめた」12 人(12.6%)、⑥「野菜を作ってみたいと思ったが、近くに菜園に使える土地や空間がなかった（市民農園・体験農園などは家から遠く、移動に時間がかかる）」12 人(12.6%)となっている。

⑦「お花・野菜を自分で花壇や菜園を利用して作ることは、管理時間や費用などを考慮すると、スーパーなどで購入するのが、効率的だと思われて、辞めた／諦めた」では 11 人(11.6%)、⑧「プランターや農具などを買い、花・野菜を育てる経済的な余裕がなかった」7 人(7.4%)、⑨「その他」6 人(6.3%)となっている。

⑩「子供（学生）の時に、授業や教育の一環として、ピーマンやアサガオなどを管理したが、自分から進んでやりたいとは思わなかった」5 人(5.3%)、⑪「近くに町内会や社会福祉協議会などが活動している菜園などはあるが、活動グループに加わりたくなかった（役職などの仕事が増えると思われた。既存の活動グループの方たちとの交流は苦手だ）」3 人(3.2%)の順であった。

まとめると、植物の管理知識不足が 40%、時間的に余裕がない・生活態度の問題がそれぞれ 26.3%、となっている。

各原因や理由を歳代別にみると、①時間的余裕がないは、30 代が 28.0%と最も高く、40 代

が 24.0%で続いている。②自分の生活態度により辞めたでは、70 歳以上が 48.0%と半数近くを占めるが、他の歳代でもある程度分布している。③水や肥料の管理不十分では、50 代が 25.0%と最も高く、30 代が 20.8%で続いており、年齢層が比較的均等に分布している。④植物に関する知識不足は、70 歳以上で 50%、40 代が 28%、20 代が 14%となっている。⑤健康上の理由では、70 歳以上で 50%、50 歳代で 25%であった。⑥近くに菜園用の空間がなかったでは、70 歳以上で 41.7%、50 代と 40 代で 16%、30 代で 25%を占めている。⑦自分で作るよりスーパーなどで買うのが効率的では、70 代が 36.4%、60 代と 40 代で 18.2%である、⑧道具の購入など費用の負担では、50 代と 40 代で 28.6%となっている。⑩学生の時授業で経験しただけでは、30 代が 60%、20 代と 70 歳以上がそれぞれ 20%である、⑪既存の町内会などの活動(菜園あり)が苦手では、30 代で 2 人(67%)、70 代で 1 人 (33%) であった。

図表 15) 歳代別、都市農業を続けられなかった原因・理由 (95 人)

|                       |    | ■20-29歳 | □30-39歳 | ■40-49歳 | ■50-59歳 | ■60-69歳 | □70歳以上 |
|-----------------------|----|---------|---------|---------|---------|---------|--------|
| Total                 | 95 | 6.3     | 17.9    | 12.6    | 17.9    | 12.6    | 32.6   |
| ①仕事が忙しく、時間的に余裕がなかった   | 25 | 4.0     | 28.0    | 24.0    | 16.0    | 12.0    | 16.0   |
| ⑧花・野菜を育てる経済的な余裕がなかった  | 7  | 14.3    | 14.3    | 28.6    | 28.6    |         | 14.3   |
| ②自分の生活態度で管理が粗末になった    | 25 | 4.0     | 8.0     | 16.0    | 12.0    | 12.0    | 48.0   |
| ⑩学生の時に、授業などで経験しただけだ   | 5  | 20.0    |         |         | 60.0    |         | 20.0   |
| ⑤自分/家族の健康上の都合であきらめた   | 12 | 8.3     | 16.7    | 25.0    |         |         | 50.0   |
| ③水管理・肥料管理などが十分にできず    | 24 | 4.2     | 20.8    | 16.7    | 25.0    | 16.7    | 16.7   |
| ④植物栽培の知識がなく失敗         | 14 | 14.3    | 7.1     | 28.6    |         |         | 50.0   |
| ⑥近くに菜園用の土地がなかった       | 12 |         | 25.0    | 16.7    | 16.7    |         | 41.7   |
| ⑪既存の町内会などの活動(菜園あり)苦手だ | 3  |         |         | 66.7    |         |         | 33.3   |
| ⑦花や野菜はスーパーでの購入が効率的だ   | 11 | 9.1     | 9.1     | 18.2    | 9.1     | 18.2    | 36.4   |
| ⑨その他                  | 6  |         | 16.7    | 16.7    | 33.3    | 16.7    | 16.7   |

図表 16) 続けられなかった理由や原因の改善が都市農業活動の再開に繋がる可能性 (95 人)

|                                                                       |                 |           |
|-----------------------------------------------------------------------|-----------------|-----------|
| 1. 植物を育てることに抵抗、健康問題などで今後変わる可能性はない。<br>(虫が嫌い・泥汚れがイヤ・きつい、アレルギー、管理が面倒など) | 22 人<br>(23.2%) |           |
| 2. 仕事や現在の活動で手一杯である。時間的に余裕ができたなら、都市農業に関わるかもしれない                        | 73 人<br>(76.8%) | 30 41.1%  |
| 3. 現在、都市農業に使える空間がない。近くに都市農業に使える土地・空間があれば、実際にやってみたい                    |                 | 11 15.1%  |
| 4. 都市農業には、結構な出費が発生する。もし安価で都市農業に関われる・実行できる機会があれば、実際にやるかもしれない           |                 | 13 17.8%  |
| 5. 関心はあるが植物の栽培方法等がわからない。もし植物の栽培について気軽に聞ける人・一緒にやれる人がいたら、やってみたい         |                 | 31 42.5%  |
| 6. 都市農業は、定年退職者の暇つぶしや地味なイメージがある。もし、ブーム・楽しいイメージに変われば、参加するかも知れない         |                 | 6 8.2%    |
| 7. その他(旅行が好き、夫に任せている)                                                 |                 | 2 2.7%    |
| 2～7の合計                                                                |                 | 93 127.4% |

都市農業を辞めた原因や理由が改善されたら、都市農業を再開する可能性について聞いた。再開する可能性は無いと答えた人は、全体の 23.2% (22 人) であった。

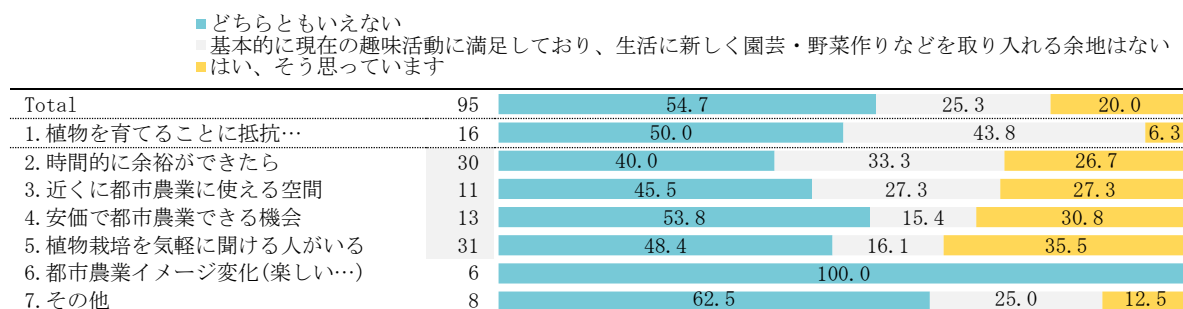
一方、続けられなかった原因や理由など環境が改善されれば、再開する可能性があると答えた人は、73 人 (76.8%) である。73 人の回答総数は 93 個となっており、一人当たり 1.3 個の辞めた理由や原因の改善が必要と思っている。

その内訳は、第1に「関心はあるが植物の栽培方法がわからない。植物の栽培について気軽に聞ける人・一緒にやれる人がいたら、やってみたい」が31人（42.5%）である。

第2に「仕事や現在の活動で手一杯である。時間的に余裕ができれば」が30人（41.1%）、第3に「都市農業には、結構な出費が発生する。もし安価で都市農業に関われる・実行できる機会があれば」が13人（17.8%）、第4に「現在、都市農業に使える空間がない。近くに都市農業に使える土地・空間があれば」が11人（15.1%）となっている。

まとめると、都市農業の経験者に都市農業を再開させる最大の誘因は、近くに植物の栽培について気軽に聞ける人がいて、都市農業関連の緩やかなコミュニティを造成できる人がいることである。そして、都市農業関連資材を安価で利用できる環境を造成・補助する、次いで自宅の近辺に菜園ができる空間の造成することである。

図表 17) 都市農業を辞めた原因や理由が改善されれば、やりたいと思うか（95人）



続いて、都市農業を辞めた原因や理由が改善される場合、あなたが現在の実行している趣味活動の時間や出費をすこし抑え、趣味的都市農業をやってみたいと思うかと聞いた。

その結果、「どちらともいえない」が54.7%と最も多く、次いで「基本的に現在の趣味活動に満足しており、生活に新しく園芸・野菜作りなどを取り入れる余地はない」が25.3%、「はい、そう思っています」が20.0%となっている。

改善条件を頻度別にみると、「関心はあるが、植物の栽培方法などがわからない。もし植物の栽培について気軽に聞ける人・一緒にやれる人がいたら」が30人で、そのうち都市農業をやりたいと答えた人は11人（35.5%）である。次いで「仕事や現在の活動で手一杯である。もし、時間的に余裕ができれば」は30人であり、26.3%が再開への意思を示した。

「都市農業には、結構な出費が発生する。もし安価で都市農業に関われる・実行できる機会があれば」の13人は、その30.8%の人が「はい」と答えている。「現在、都市農業に使える空間がない。近くに都市農業に使える土地・空間があれば」には11人が答えており、その27.3%が再開への意思を示している。

つまり、近くに都市農業に使える空間がなく都市農業を辞めた人の27.3%は、空間さえあれば都市農業に取り組む可能性が高く、都市農業への出費を負担に思う人の30.8%は、安価に都市農業ができる機会があれば参加する可能性が高い。

図表 18) 歳代別・中止理由別再開への条件 (95 人)

|                                        | Total  | 20-29 歳 | 30-39 歳 | 40-49 歳 | 50-59 歳 | 60-69 歳 | 70 歳以上 |
|----------------------------------------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|
| Total                                  | 95     | 6       | 17      | 12      | 17      | 12      | 31     |
|                                        | 100.0% | 6.3%    | 17.9%   | 12.6%   | 17.9%   | 12.6%   | 32.6%  |
| 1. 植物を育てることに抵抗、今後考え方が変わる可能性はない (23.2%) | 16     | 2       | 6       | 1       | 2       | 2       | 3      |
| ※                                      |        | 33.3%   | 35.3%   | 8.3%    | 11.8%   | 16.7%   | 9.7%   |
|                                        | 100.0% | 12.5%   | 37.5%   | 6.3%    | 12.5%   | 12.5%   | 18.8%  |
| 2. 仕事や現在の活動で手一杯。時間的に余裕ができれば (41.1%)、   | 30     | 2       | 6       | 8       | 6       | 3       | 5      |
| ※                                      |        | 33.3%   | 35.3%   | 66.7%   | 35.3%   | 25.0%   | 16.1%  |
|                                        | 100.0% | 6.7%    | 20.0%   | 26.7%   | 20.0%   | 10.0%   | 16.7%  |
| 3. 近くに都市農業に使える土地・空間があれば (15.1%)、       | 11     | 1       | 3       | 2       | 1       | 1       | 3      |
| ※                                      |        | 16.7%   | 17.6%   | 16.7%   | 5.9%    | 8.3%    | 9.7%   |
|                                        | 100.0% | 9.1%    | 27.3%   | 18.2%   | 9.1%    | 9.1%    | 27.3%  |
| 4. 安価で都市農業に関われる・実行できる機会があれば (17.8%)、   | 13     | 1       | 1       | 2       | 3       | 3       | 3      |
| ※                                      |        | 16.7%   | 5.9%    | 16.7%   | 17.6%   | 25.0%   | 9.7%   |
|                                        | 100.0% | 7.7%    | 7.7%    | 15.4%   | 23.1%   | 23.1%   | 23.1%  |
| 5. 植物栽培について気軽に聞ける人/一緒にやれる人がいたら (42.5%) | 31     | 2       | 1       | 5       | 7       | 3       | 13     |
| ※                                      |        | 33.3%   | 5.9%    | 41.7%   | 41.2%   | 25.0%   | 41.9%  |
|                                        | 100.0% | 6.5%    | 3.2%    | 16.1%   | 22.6%   | 9.7%    | 41.9%  |
| 6. 都市農業がブーム・クールで楽しいイメージに変われば (8.2%)    | 6      | 0       | 0       | 0       | 2       | 1       | 3      |
| ※                                      |        | 0.0%    | 0.0%    | 0.0%    | 11.8%   | 8.3%    | 9.7%   |
|                                        | 100.0% | 0.0%    | 0.0%    | 0.0%    | 33.3%   | 16.7%   | 50.0%  |
| 7. その他                                 | 8      | 0       | 1       | 0       | 2       | 1       | 4      |
| ※                                      |        | 0.0%    | 5.9%    | 0.0%    | 11.8%   | 8.3%    | 12.9%  |
|                                        | 100.0% | 0.0%    | 12.5%   | 0.0%    | 25.0%   | 12.5%   | 50.0%  |

※の行は、各歳代別回答人数に対する割合である。

都市農業の中止理由別にみると、「関心はあるが植物の栽培方法等がわからない。もし植物の栽培について気軽に聞ける人・一緒にやれる人がいたら」については、全回答者に占める 70 歳以上の割合が 41.9%と最も高い。第 2 に「仕事や現在の活動で手一杯。時間的に余裕ができれば」では、40 代の割合が 26.7%と最も高く、70 歳以上の割合が 16.7%と全体平均より低い。第 3 に都市農業活動の出費を負担に思っている人では、50 代・60 代・70 歳以上の各年代でそれぞれ 23.1%と均等に分布している。50 歳代以上の低所得者層では、都市農業に際して費用が気になっていると言える。第 4 に都市農業用の空間確保が原因でやめた人 11 人には、30 代と 70 歳以上で 3 人ずつ答えている。

再開条件を歳代別にみると、70 歳以上では、栽培について気軽に聞ける人や一緒にやれる人に 41.9%、時間的余裕が 16.1%、60 代では栽培について気軽に聞ける人・時間的余裕・安価でできるが同率の 25%となっている。50 代では栽培について気軽に聞ける人が 41.2%、時間的余裕が 35.3%となっている。40 代では、時間的余裕が 66.7%、栽培について気軽に聞ける人 41.7%、30 代では時間的余裕が 35.3%、都市空間に使える空間の確保が 17.6%となっている。

まとめると、全歳代で時間的余裕をあげている。経験者に都市農業活動を再開させるためには、時間的な余裕の確保と、植物栽培について気軽に聞ける人がいる環境作りと、近辺で菜園に使える土地確保、関連資材等の補助が求められている。

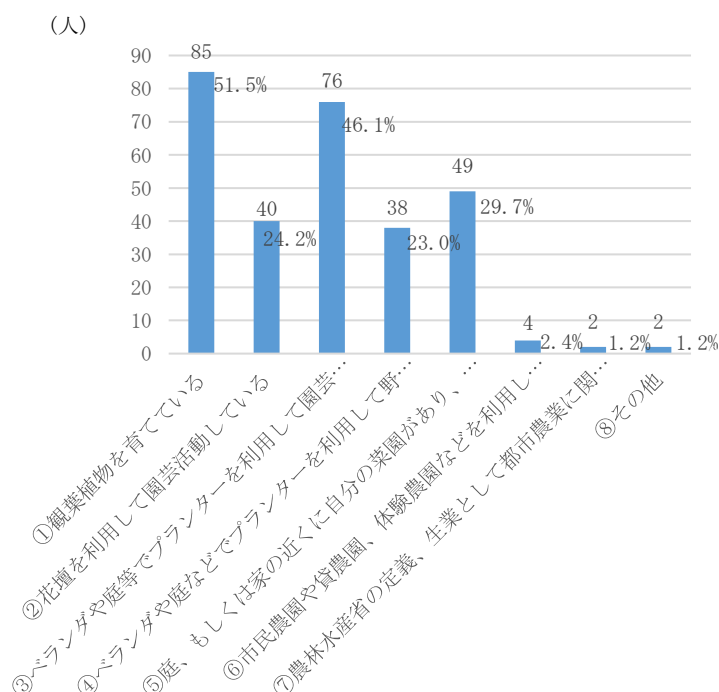


## V 市民の都市農業活動内容及び近くの菜園用土地へのニーズ

### 1 北九州市民の都市農業の内容

「現在、都市農業を行っている」と答えた人に、その内容を聞いた。①観葉植物を育てている、②花壇を利用して園芸活動している、③ベランダや庭などでプランターを利用して園芸活動、④ベランダや庭等でプランターを利用して野菜を作っている、⑤庭もしくは家の近くに自分の菜園があり、野菜等を作っている、⑥市民農園や貸農園、体験農園などを利用して野菜などを作っている、⑦農林水産省の定義、生業として都市農業に関わっている、⑧その他（自由記述）の項目から、該当する内容はすべて回答するようにした。

図表 19) 都市農業活動の内容（165 人、296 回答）



その結果、現在都市農業活動している 165 人から、296 個の回答が得られた。一人当たりの 1.8 個の回答であり、都市農業プレイヤーは 2 つ程度の活動を実行している。図表に示しているように、①観葉植物を育てている人が最も多く 85 人（51.5%）である。次に③ベランダや庭等でプランターを利用した園芸活動が 76 人（46.1%）、⑤庭や近くの自分の菜園で野菜などを作っている人は 49 人（29.7%）、②花壇で園芸活動は 40 人（24.2%）、④ベランダや庭等でプランターを利用して野菜を作っている人は、38 人（23%）であった。

一方で、⑥市民農園などの貸農園や体験農園で野菜等を作っている人は、4 人（2.4%）、⑦生業としての都市農業に関わっている人は、2 人（1.2%）であり、少数にとどまっている。ちなみに、生業として関わっている 2 人は農業が本業ではない。

図表 20) 歳代別都市農業活動の内容 (165 人)

|         | Total<br>579 人<br>実行者割合 |       | 20-29 歳<br>45 人<br>/11.1% |       | 30-39 歳<br>88 人<br>/25.0% |       | 40-49 歳<br>88 人<br>/14.8% |       | 50-59 歳<br>82 人<br>/19.5% |       | 60-69 歳<br>98 人<br>/32.7% |       | 70 歳以上<br>178 人<br>/43.3% |       |
|---------|-------------------------|-------|---------------------------|-------|---------------------------|-------|---------------------------|-------|---------------------------|-------|---------------------------|-------|---------------------------|-------|
| Total   | 165                     | 100%  | 5                         | 100%  | 22                        | 100%  | 13                        | 100%  | 16                        | 100%  | 32                        | 100%  | 77                        | 100%  |
| 観葉植物    | 85                      | 51.5% | 2                         | 40.0% | 8                         | 36.4% | 9                         | 69.2% | 12                        | 75.0% | 20                        | 62.5% | 34                        | 44.2% |
| プランター園芸 | 76                      | 46.1% | 2                         | 40.0% | 9                         | 40.9% | 8                         | 61.5% | 6                         | 37.5% | 17                        | 53.1% | 34                        | 44.2% |
| 庭/近辺菜園  | 49                      | 29.7% | 2                         | 40.0% | 5                         | 22.7% | 5                         | 38.5% | 5                         | 31.3% | 6                         | 18.8% | 26                        | 33.8% |
| 花壇園芸    | 40                      | 24.2% | 0                         | 0.0%  | 3                         | 13.6% | 3                         | 23.1% | 3                         | 18.8% | 6                         | 18.8% | 25                        | 32.5% |
| プランター野菜 | 38                      | 23.0% | 1                         | 20.0% | 9                         | 40.9% | 5                         | 38.5% | 2                         | 12.5% | 11                        | 34.4% | 10                        | 13.0% |
| 貸農園等利用  | 4                       | 2.4%  | 0                         | 0.0%  | 1                         | 4.5%  | 0                         | 0.0%  | 0                         | 0.0%  | 0                         | 0.0%  | 3                         | 3.9%  |
| 生業/都市農業 | 2                       | 1.2%  | 0                         | 0.0%  | 0                         | 0.0%  | 0                         | 0.0%  | 2                         | 12.5% | 0                         | 0.0%  | 0                         | 0.0%  |
| その他     | 2                       | 1.2%  | 0                         | 0.0%  | 0                         | 0.0%  | 0                         | 0.0%  | 0                         | 0.0%  | 0                         | 0.0%  | 2                         | 2.6%  |

各歳代別頻度をみると、最も多い「観葉植物の管理」は全歳代で 35%をこえている。歳代別には、50 代で 75%と最も高く、40 代 69.2%、60 代 62.5%と比較的に高い。30 代が、最も低い割合(36.4%)となっている。

第 2 に「ベランダや庭等でプランターを利用した園芸活動」は、40 代で最も高い割合(61.5%)を示している。60 代でも半数以上(53.1%)が行っている。

第 3 に「庭もしくは自宅近辺の自分の菜園で野菜などを作る」人は、20 代で 40%(サンプルサイズが小さい)、40 代で 38.5%、70 歳以上で 33.8%となっている。

第 4 に「花壇での園芸活動」は、70 歳以上で 32.5%、60 代及び 50 代でそれぞれ 18.8%となっており、若い年齢層ではあまり行われていない。

## 2 都市農業プレイヤーの近所の菜園用の土地へのニーズ

現在、都市農業を実行している 165 人に、近く(徒歩圏内、半径 1km・片道 15 分程度)に菜園に使える土地(15m<sup>2</sup>以上—およそ駐車場一台分以上の面積)があれば、菜園をやってみたいと思うかを聞いた。「いいえ、現状に満足しており、菜園を始めたり、菜園を拡大したりすることは思っていない」と「はい。近くに安く使える土地があれば、菜園をチャレンジしてみたい」の項目で、一つを選択するようにした。

回答をみると、110 人(66.7%)は、現在の都市農業活動に満足しており、新しく菜園を始めたり拡大したりすることは考えていない。一方、55 人(33.3%)は、近くに安く使える土地があれば、菜園に新しくチャレンジ、もしくは菜園を拡大したいと答えている。

図表 21) 菜園に使える自宅近くの土地へのニーズ (165 人)

|       | Total |       | 20-29 歳 |       | 30-39 歳 |       | 40-49 歳 |       | 50-59 歳 |       | 60-69 歳 |       | 70 歳以上 |       |
|-------|-------|-------|---------|-------|---------|-------|---------|-------|---------|-------|---------|-------|--------|-------|
| Total | 165   | 100%  | 5       | 100%  | 22      | 100%  | 13      | 100%  | 16      | 100%  | 32      | 100%  | 77     | 100%  |
| いいえ   | 110   | 66.7% | 2       | 40.0% | 13      | 59.1% | 6       | 46.2% | 8       | 50.0% | 24      | 75.0% | 57     | 74.0% |
| はい    | 55    | 33.3% | 3       | 60.0% | 9       | 40.9% | 7       | 53.8% | 8       | 50.0% | 8       | 25.0% | 20     | 26.0% |

「はい」と答えた 55 人を歳代別にみると、20 代では 60%、50 代 50%、40 代 53.8%、30 代では 40.9%を示している。一方、60 代及び 70 以上では 25%程度となっており、新しく菜園



を始めたり、現在の都市農業形態を変えたりする意向は比較的低い。

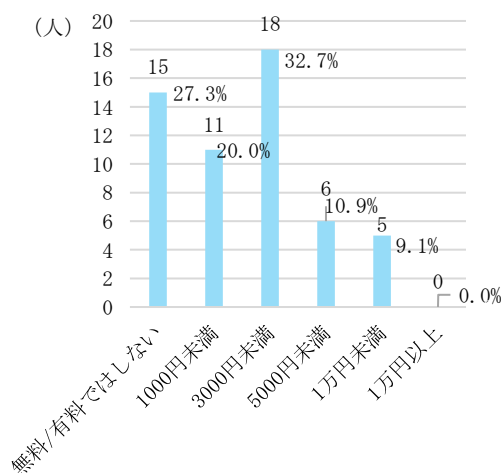
一方、現在、庭や近くに自分の菜園を利用して野菜などを作っている人が 49 人、花壇を利用して園芸活動をしている 40 人であった。そのうち 8 人は、花壇での園芸活動と庭や近くの菜園で野菜作りを兼ねている。即ち、81 人が土地を利用した都市農業活動をしているが、そのうち 26 人が自宅近辺の菜園に使える土地の利用を希望している。その割合は、32.1%であり、全都市農業プレイヤーの 33.3%とあまり変わらない。即ち、現在、自分の花壇や菜園で活動をしている・していないかでは、土地利用希望率が変わらない。

しかし、現在、花壇での園芸活動と庭や近くの自分の菜園で野菜を作る活動を兼ねている 8 人では、そのうち 7 人 (87.5%) が近くの菜園用土地の利用を希望している。また、市民農園などの貸農園を利用している人は、4 人であるが、そのうち 2 人は、近くの土地の利用を希望している。ちなみに、この 4 人は、自分の花壇及び庭や近くの菜園での都市農業活動はしていない。この 2 つのグループの人の土地利用の希望率は注目すべきである。

### 3 近所の菜園用の土地への支払い許容額

近く/徒歩圏内にある菜園に使える土地 (15 m<sup>2</sup>程度) を利用したいと答えた 55 人に、その土地の利用に際して、年間の支払い許容額を聞いた。

図表 22) 近くの菜園用の土地 (徒歩圏内、15 m<sup>2</sup>程度) への支払い許容額 (55 人)



まず、有料では利用しない/無料での利用を希望した人は、15 人 (27.3%) である。

一方、有料での利用希望者は 40 人 (72.7%) であり、全回答者 (579 人) の 6.9%に該当する。

有料での利用希望者の年間支払許容額は、「1000 円～2999 円」が最も多く 32.7%、次いで「1～999 円」が 20.0%となっている。「5000 円～9999 円」区間の高額な支払いを許容する回答者は比較的少なく、9.1%にとどまった。

また、全ての歳代で「1 万円以上」の回答が 0%となっており、近くの菜園用の土地の利用に対する支払い許容額の上限が明確に示された。

図表 23) 近所の菜園用の土地利用時の歳代別支払い許容額 (55 人)

|             | Total |       | 20-29 歳 |       | 30-39 歳 |       | 40-49 歳 |       | 50-59 歳 |       | 60-69 歳 |       | 70 歳以上 |       |
|-------------|-------|-------|---------|-------|---------|-------|---------|-------|---------|-------|---------|-------|--------|-------|
| Total       | 55    | 100%  | 3       | 100%  | 9       | 100%  | 7       | 100%  | 8       | 100%  | 8       | 100%  | 20     | 100%  |
| 無料          | 15    | 27.3% | 1       | 33.3% | 4       | 44.4% | 2       | 28.6% | 3       | 37.5% | 1       | 12.5% | 4      | 20.0% |
| 1-999 円     | 11    | 20.0% | 1       | 33.3% | 2       | 22.2% | 0       | 0.0%  | 3       | 37.5% | 0       | 0.0%  | 5      | 25.0% |
| 1000-2999 円 | 18    | 32.7% | 0       | 0.0%  | 3       | 33.3% | 3       | 42.9% | 1       | 12.5% | 5       | 62.5% | 6      | 30.0% |
| 3000-4999 円 | 6     | 10.9% | 1       | 33.3% | 0       | 0.0%  | 0       | 0.0%  | 1       | 12.5% | 2       | 25.0% | 2      | 10.0% |
| 5000-9999 円 | 5     | 9.1%  | 0       | 0.0%  | 0       | 0.0%  | 2       | 28.6% | 0       | 0.0%  | 0       | 0.0%  | 3      | 15.0% |
| 1 万円以上      | 0     | 0.0%  | 0       | 0.0%  | 0       | 0.0%  | 0       | 0.0%  | 0       | 0.0%  | 0       | 0.0%  | 0      | 0.0%  |

歳代別にみると、30 代では「無料（有料では利用しない）」が 44.4%と最も高い。

40 代では、「1000 円～2999 円」（42.9%）と「5000 円～9999 円」（28.6%）に二極化しており、他の年齢層と比べて高額な支払いを許容する傾向が見られる。

50 代では、「無料」と「1 円～999 円」がそれぞれ 37.5%、「1000 円～2999 円」と「3000 円～4999 円」がそれぞれ 12.5%となっている。5000 円以上ではゼロであった。

60 代では、「1000 円～2999 円」の割合が 62.5%と突出して高く、適度な金額での利用を希望する傾向がみられる。

70 歳以上では、全体的に回答が分散しており、「1000 円～2999 円」が 30.0%、「1～999 円」が 25.0%、「無料」が 20.0%となっている。

## VI 市民の都市農業活動に際してのニーズ

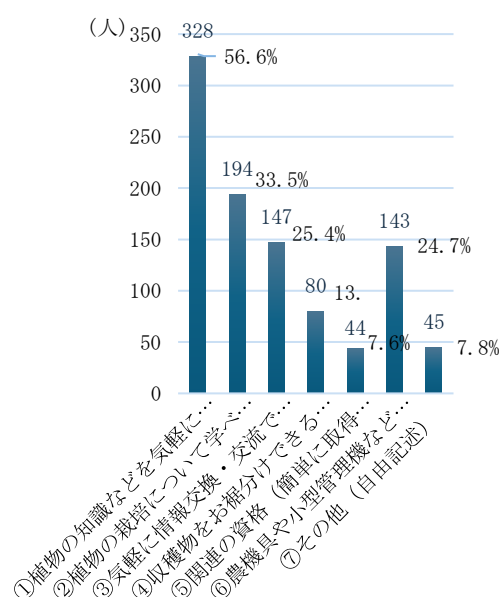
本調査では、全回答者に広い意味での都市農業活動をするにあたって、あればいいと思うことについて、その他（自由記述）を含む 7 つの選択肢を与え、答えるようにした。その結果、回答者 579 人から 981 個の答えが得られた。一人当たり 1.7 個のニーズを示している。

最も頻度が高いのは、「植物の知識などを気軽に聞けるところ・人」328 人（56.6%）であった。2 番目に「植物の栽培について学べる場所(教育の機会)」が 194 人(33.5%)、3 番目に「気軽に情報交換・交流できる仲間(既存の町内会などの関連部会などには、入会したくない)」が 147 人（25.4%）となっている。

4 番目には「農機具や小型管理機などを借りられるところ」が 143 人（24. %）、5 番目には「収穫物をお裾分けできる・寄付できる所」の 80 人（13.8%）、6 番目には「その他（自由記述）」に 45 人（7.8%）である。7 番目には「関連の資格（簡単に取得できる資格、都市農業管理士、初級園芸福祉士など）」44 人(7.6%)が答えている。

その他 45 人の記述をみると、「特になし」が 36 人、「(都市農業に) 興味なし」が 5 人、残り 4 人は他の 3 つの内容を記述していた。

図表 24) 都市農業に関わるにあたってのニーズ (579 人、981 個の回答、複数回答可)



## VII まとめ

縮減都市北九州市では、広い意味での都市農業を活用し、空き家・空き地問題、高齢者の居場所不足問題、コミュニティ強化問題など、地域課題の解決可能性を考察すべきであるが、現状に関する基礎調査さえなかった。本研究では、アンケート調査により、北九州市民の広い意味での都市農業活動に関する現状を明らかにした。

第 1 に、北九州市では、約 1 割の人が、園芸や観葉植物を育てること、野菜作りなどの広い意味での都市農業を、趣味活動として行っている。しかし、日常生活で広い意味での都市農業活動を実行している人の割合は、その 3 倍に及ぶ。

第 2 に、現在何らかの形で都市農業を実行している人と、経験はあるが現在行っていない人の合計は 45% であり、都市農業活動の経験がないと答えた人は 55% であった。

第 3 に、都市農業の経験はあるが、続けられなかった人が、その原因や理由として挙げているのは、植物の管理に関する知識不足が最も多く 40%、時間的に余裕がない・生活態度の問題がそれぞれ 26%、となっている。

第 4 に、現在都市農業活動を行っている回答者達の活動内容は、観葉植物を育てることが 52%、プランターを利用した園芸が 46%、庭などで菜園が 30%、花壇で園芸が 24%、プランターで野菜栽培が 23% となっている。とくに、庭や花壇、市民農園などの土地を利用した活動をする人の割合は 53% であり、全回答者の 15% にあたる。

第 5 に、自宅近くの菜園用の土地に関するニーズも大きく、現在都市農業活動をしている 165 人の 33% (55 人) が土地の利用を希望している。これは、全回答者の 9.5% に該当する。そして、都市農業経験者の中で、条件が改善できれば、再開する可能性があるかと答えたのは 73

人であるが、そのうち 11 人が「近くに都市農業活動に使える空間の確保」を条件としてあげており、全回答者の 1.9%水準に該当する。即ち、全回答者の 11%を超える人が、家の近くに菜園に使える土地があれば、利用を希望していると言える。とくに、全回答者の 7%程度が有料での利用を希望していることは特記すべきである。

第 6 に、全回答者が都市農業活動に際して、必要と思うことは、「植物の知識などを気軽に聞けるところ・人」が最も高く 57%を示している。2 番目に「植物の栽培について学べる場所（教育の機会）」34%、3 番目に「気軽に情報交換・交流できる仲間」が 25%となっている。

今後、市内に都市農業活動の人口を増やすためには、市民の都市農業活動に際してのニーズや都市農業活動をしていない経験者の関連活動再開への条件を参考に、その環境を整わせる必要がある。

第 1 に植物の栽培について気軽に聞けるところ及び人を増やすこと、第 2 に植物の栽培について学べる場所、第 3 に植物の栽培などについて気軽に情報交換・交流できる仲間を増やすことである。

これらの条件を満たせる環境の造成には、韓国の都市農業管理士制度が手掛かりになりえる。韓国の都市農業管理士は、国家資格であり、資格をもつ人がグループを結成し活動をする、自治体などはサポートをしている。都市農業管理士グループは、各地域で空き地などを利用して関連活動を展開しながら、都市農業活動を楽しむ人々を増やしている。詳細は、李 (2024b) を参照していただきたい。また、北九州市を対象に、これらの環境の造成にむけた制度導入の可能性や関連の分析は、次の課題として取り組みたい。

## 謝辞

本稿は、NPO 法人里山を考える会の「2023 年度学術研究助成金」を利用して行った研究の一部である。また、NPO 法人の代表理事関宣昭氏には、フィールドワークの時にも多大な協力を頂いた。ネット調査に際しては、地域戦略研究所の岡田氏及び地域学生課の金井氏に大変お世話になった。ご協力頂いた皆様に御礼の言葉を申し上げる。但し、本論文における主張は筆者の見解であり、論文にありうる論理的誤謬等の責任は全て著者にある。

(本学 地域戦略研究所 特任准教授)

## 〔注〕

<sup>1</sup> 一例に 2020 年 6 月に、日本最大級の就職サイトの株式会社マイナビの「マイナビニュース会員」20 代から 60 代までの 522 人を対象にしたネット調査の結果を一部引用する。「大人の趣味」だと感じる趣味などがありますか?(n=522)、ある(71.6%)、ない(28.4%)。大人になってから始めた/もしくは始めたいと思う趣味ありますか?(n=522)に、ある(71.1%)、ない(28.9%)と答えている。その他(自由回答)を含む 13 項目の選択肢(複数回答可)から得られた回答を頻度別にみると、1 位に園芸や観葉植物を育てること(22.4%)、2 位に美術館や博物館めぐりなど鑑賞(20.8%)、3 位にその他(自由回答)(20.2%)、4 位ゴルフやテニスなどのスポーツ(17.0%)、5 位料理(15.6%)、6 位パチンコ/スロット/競馬など(15.1%)、7 位ランニン

グ/ウォーキングなど(14.3%)となっている。

<sup>2</sup> 吉田 (2021) 参照

#### 〔参考文献〕

- 李錦東 (2024a) 「縮減都市における都市農業への期待と現状に関する研究-北九州を事例に-」  
『地域戦略研究所紀要』第 9 号、pp. 39-60。
- 李錦東 (2024b) 「韓国の都市農業の成長と関連制度に関する研究-都市農業コミュニティ作りへの示唆-」『北九州市立大学地域戦略研究所年報』第 4 号、pp. 131-152。
- 久保田裕美 (2011) 「都市住民と「農」との新たな関わりに関する現状と課題」『食品経済研究』  
第 39 号、pp. 18-32。
- 横張真、新保奈穂美 (2013) 「都市の農の新時代-都市に開かれた農のあり方を考える-」『土地総合研究』2013 年夏号、pp. 1-7。
- 二村太郎 (2015) 「人口減少下のデトロイトにおける都市農業の発展とその課題」『同志社アメリカ研究』同志社大学アメリカ研究所、pp. 47-65。
- 二村太郎 (2020) 「拡大するアメリカ合衆国の都市農業とその課題」『日本不動産学会誌』第 34 巻 1 号、pp. 32-37。
- 国土交通省都市局 (2017) 『都市部未利用地のコミュニティ農園的活用方策検討調査報告書』
- 榊田みどり (2022) 「『農的暮らしをはじめの本～都市住民の J A 活用術』解説動画」小農学会・西日本新聞社共同提供資料
- 中塚 華奈、榊田みどり、橋本卓爾(編著) (2023) 『都市農業新時代-いのちとくらしを守り、まちをつくる』実生社
- 吉田真悟 (2021) 『都市近郊農業経営の多角化戦略: 日英における経営戦略と持続可能性』東京大学出版会
- 農林水産省 (2010) 『(平成 21 年度農林水産省大臣官房政策課委託調査事業) 大都市部における農業アクセス機会の向上のための方策検討調査委託事業報告書』
- Lotta Schäfer, Janina Kleemann, and Marcin Spyra (2023) Allotment Garden Products as Contribution to Sustainable and Resilient Cities : An Analysis in Leipzig, Germany *Sustainability* 2023, 15, 5598.  
<https://doi.org/10.3390/su15065598> <https://www.mdpi.com/journal/sustainability>

**STUDIES**  
OF  
INSTITUTE FOR  
REGIONAL STRATEGY  
CONTENTS

|                                                                                                                     |                       |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------|
| A questionnaire survey on urban agricultural activities among residents of<br>the shrinking city, Kitakyushu, Japan | LEE Geumdong ..... 59 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------|

No. 10  
March 2025  
INSTITUTE FOR REGIONAL STRATEGY  
THE UNIVERSITY OF KITAKYUSHU  
KITAKYUSHU CITY, JAPAN